

## 損益の状況

業務純益は、前年同期比で21百万円増加の699百万円となりました。これは、資金調達における預金利息が金利上昇等から大幅に増加しましたが、貸出金利の上昇も併せて、運用勘定利息等が順調に推移したことなどから増益となりました。

経常利益は、前年同期比101百万円減少の701百万円となりました。

当期純利益は、経常利益の減益や法人税等の減算により、前年同期比194百万円減少の504百万円となりました。

(単位:百万円)

	平成18年9月期	平成19年9月期	増減
業務純益	677	699	21
経常利益	802	701	△101
当期純利益	699	504	△194

(注) 各計数は単位未満切り捨て表示しております。

- ※「業務純益」は、貸付金利息などの本業による「業務収益」から、預金利息・人件費などの「業務費用(金銭の信託運用見合費用を除く)」を差引いたもので、金融機関の本来業務の利益を表します。
- ※「経常利益」は、業務収益に臨時収益を加えた「経常収益」から、業務費用に臨時費用を加えた「経常費用」を差引いたもので、通常の利益を表します。
- ※「当期純利益」は、「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」を加減算した利益から、「法人税等」及び「法人税等調整額」を差引いたもので、最終的な利益を表します。

## 有価証券の時価状況

債券の評価差額については、大幅な変動はありませんでしたが、株式については、売却益の確保と市況の低迷により評価損が拡大となりました。その結果、有価証券全体(その他有価証券区分)での評価差額は△578百万円となりました。なお、当金庫の有価証券運用は、格付けの高い債券を主体に行っており、個別銘柄で破綻等による損失は発生していません。

(単位:百万円)

区分	平成19年3月末				平成19年9月末			
	時価	評価差額	うち益	うち損	時価	評価差額	うち益	うち損
その他有価証券	62,604	△213	637	850	65,009	△578	518	1,096
株式	2,271	61	210	148	2,153	△133	132	266
債券	52,881	△399	210	609	54,465	△382	189	571
その他	7,451	123	216	93	8,390	△62	195	258

(注) 「評価差額」及び「評価損益」は、取得原価(償却原価)と時価との差額を計上しております。

(単位:百万円)

区分	平成19年3月末				平成19年9月末			
	帳簿価額	評価差額	うち益	うち損	帳簿価額	評価差額	うち益	うち損
満期保有目的の債券	13,656	△587	119	706	12,868	△766	51	817
子会社株式	10	—	—	—	10	—	—	—

(注) 各計数は単位未満切り捨て表示しております。